

## 第1回新宿区文化芸術振興会議（第7期）議事要旨

■開催日時 令和4年12月20日 午後2時から午後3時30分まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第2委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 藤岡紗絵 堀家睦子 工藤真実  
中島隆太 大和滋 飯田直子（欠席 岡室美奈子）

\*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順

事務局 小泉文化観光産業部長 村上文化観光課長 原文化観光係長 内藤

### ■議事の進行

#### 1 開会

会長選出までの間、事務局が会議の進行を務めた。

#### 2 委任状の交付・委員の紹介

\*任期：令和4年9月9日から令和6年9月8日まで

#### 3 区長挨拶

吉住区長が、会議の開催にあたり、挨拶を述べた。

#### 4 会長の選出

新宿区文化芸術振興会議規則第4条第1項及び第2項の規定に基づき、委員の互選により、全員一致で、高階委員を会長として選出した。

#### 5 会長挨拶

高階会長が、会長就任にあたり、挨拶を述べた。

#### 6 副会長の指名

新宿区文化芸術振興会議規則第4条第2項に基づき、高階会長が垣内委員を副会長として指名した。

#### 7 議事

（1）本日の進行は、次第によることを確認した。また、検討内容のとりまとめ及び資料として保存することを目的として、会議の録音について、各委員の了承を得た。

（2）「新宿区文化芸術振興会議の運営（進め方）について」

資料2に基づき、事務局が説明を行い、第7期の活動は資料のとおり運営することが確認された。

（3）「新宿区文化芸術振興会議の調査審議事項について」

第7期の調査審議事項について、意見交換を行った。

（4）調査審議事項について、専門部会で論点整理を行い、次回会議で審議することが確認

された。

【以降、意見交換】

・調査審議事項について、前期会議においては中間のまとめになったが、引き続きこのテーマについて、もう少し絞り込んだ形で議論を進めていく形がよろしいのではないかと。

・第6期の報告書も改めて拝見すると、今回の審議事項は、芸術そのものをいかに振興していくかということもさることながら、まちづくりの中に芸術振興というものが、いかに役割を持っていくかということが重要と考えるので、まちづくり、そこで芸術を通して新宿にいらっしゃる方、あるいは新宿区民の活力につながっていくかという視点で、施策が生きていくようなことを、1つのバロメーターに議論を進めていければと考えている。

・資料2の振興会議の流れを見ていただくといいと思うが、第2期と第4期に、文化センターのあり方と運営方針の明確化という議論をした。それまでの議論の中で、文化センターの顔が見えないという議論があり、運営方法をどうしようかという議論を積み重ねたところで、その中で音楽と舞踊に重点を置こうという方向性が出た。そして、それ以降、そういう方針が決まるということは、現場の職員が仕事を絞ってやりやすくなるということで、ここ1、2年、かなりプログラムが充実してきていると思う。

・そういう流れで見ると、どこまで影響力があるか分からないが、西口のほうもかなり大きな文化的な方針というものを示して、まちづくりというものと文化という方向に関わっていくというようなことがあると思っている。

・新宿フィールドミュージアムで毎年やるSHIN-ONSAIという音楽イベントがある。これは、文化センターで音楽イベントを10月にやろうということが何年か積み重なってきている。

・そういうことを受けて、私どもの組織として、ライブハウスを回遊するようなイベント「OMNIBUS」をやろうと進めて、来年1月9日には、「OMNIBUS」でライブハウスを巡ると同時に、野外ライブをやろうかという議論をした。いろいろ各社にご協力いただいたが、課題になる公開空地の利用には、なかなか困難な問題があり、やっとペンギン広場1カ所だけができるということになった。

・本当にまちづくりとそういう公共の規制は、かなり大変な問題なのかなと思っていて、ぜひこの辺は、まちを挙げて、新たにできるであろう新宿駅西口の広場の活用方針というものを何らかの形で、この課題2にあるように、規制問題等との兼ね合いをどうしていくかということは何らかの形で議論できれば、何か特徴あるまちに、歌舞伎町から文化センターにかけてライブハウスや音楽の流れと、それと結ぶ西口という形で広がっていければ、新宿のまちづくりという面でいいものがあるのかなと思っている。

・最近、大阪のミナミに呼ばれて行ってきたが、大阪万博を控えて、かなり大胆なことをやろうとしている。なんば駅前の道路を全部ふさいで広場にする。ちょっと考えられないような、公共の道路をふさいで、そこを広場につくり替えるということもやって、ミナミを文化で発信しようというような。

・難波も飲食と劇場とがかなり密集したところなので、そういう中で、そこまでやろうとしている。

・新宿もあの広場自体はかなり大胆なことだろうと思うし、全国的にそういう、大都市における文化によるまちづくりみたいなことが意識されてきているのかなと思ったので、その

ような議論を積み重ねられると、その流れの中でICTも含めて考えていければいいかなと思った。

- ・前期が中間報告で終わったので、引き続き今期もこの2つのテーマ、審議のポイントに書かれているところを、範囲を絞り込みながらやっていく、具体化していく。

- ・その上で、やはり審議テーマに新宿駅西口、先月末には東京都と企業がコラボして、西口の最大の強みである広大なスペースを利用したイベントが開催された。

- ・その中ではリアルロールプレイングゲームとか、いろいろな形で回遊性と集客力の向上を図っていた。ややもすると集客力が今まで乏しかった西口で、再々開発を生かしながら、どう文化芸術を柱にして集客性、それから回遊性を上げていくかというトライアルができるチャンスでもある。そのベースとして、この会議でいろいろなアイデアを出せていければいいかなと思う。

- ・そのほかにも、新宿区にはいわゆる広場、小さな広場がたくさんある。間もなく東急が大きなシアターをオープンする。その前に大きな広場があるが、新宿区の職員の方はいろいろな問題意識を持っているが、実は必ずしも安心安全、清潔な広場ではなかった。

- ・今日、たまたまそこを歩いたら、キッチンカーが何台か並び、ベンチが置かれた。それが恒久的なのか一時的なのか分からないが、ある種、食の文化と考えれば、広場が安心安全な、清潔な場になっていくということも、新宿区とすれば、大事な視点になっていくのではなかろうかと思う。

- ・ICTの活用については、また議論されながらテーマを絞り込んでいくということなのだが、アフターコロナで、新宿も随分海外の方、国内の方とも人が増えた。新宿を歩いていると、やはりいろいろな言語の方が、みんなスマホを持ちながら、キャリーケースを抱えて、行くところを探していくようなので、いずれにしてもビジターにフレンドリーな新宿区というのか、その上でICTを文化芸術も絡めて生かしていくということに新宿区が取り組むことは、恐らくは新宿区の強みにつながっていくのかなと思っている。

- ・ICTの活用について、コロナ禍において、我々実演団体としてどのような経緯で行ってきたかというのを、まず説明させていただきたいと思う。

- ・2020年2月末から3月にかけて、安倍首相が緊急事態宣言以前の、自粛要請をされた。2週間ずつ延び延びになってきたもので、その都度、我々は、主催公演及び依頼公演が2週間ごとに全部中止になっていった。4月に入り、緊急事態宣言に入ってから当面の間、6月末、7月ぐらいまで全て中止で、全てのチケットを払い戻した。予約が入っていた売上げ、依頼公演も全部ゼロ。当然、出演料も入らない。主催公演で押さえていたホールは前払いなので、そのホール代は戻ってこない。全てゼロになった。

- ・ただ、ゼロになったが、3カ月ぐらい過ぎて、6月から7月にかけて、実演はできず、お客さんを集めてやれないが、ネット配信でのコンサートをしようにというのがぼつぼつ出てきた。これは日本だけではなくて、世界中が始めた。

- ・最初は致し方ない、それでも、演奏するほうの立場からすると、演奏する機会があるだけでもありがたいということでやった。それが半年ぐらい続いたが、徐々にお客さん、ホールの定員において50%以内の集客が認められるということで、お客さんを入れた。それでもまだ、配信もしている。

・ところがずっと半年も配信をやっていると、演奏をするほうは人間で、子どものころから訓練して、音楽大学に行って、厳しいオーディションを通してプロになったわけで、お客さんのいないところで演奏を披露するという前提ではなく、しばらくすると、外国人の指揮者もそうだが、非常にむなしい作業であると感じだした。

・要するに、演奏するほうも人間なので、ネットで世界中にオンエアされようと、お客さんのいないホールで、目の前ががらがらの誰もお客さんのいないところで満席の状態と同じように演奏しろというのは無理な話

・そういう矛盾を抱えながら3年目に入ったわけだが、今はどうかというと、そういうものは一切なくなった。あるとしたら、お客さんを入れた状態でライブのコンサートを配信するという状態。

・これだと、ライブの感覚も通じるという形であるので、我々実演家の団体としてはICTの活用というのはそういう活用の仕方。

・それをアーカイブとして保存して、例えば、特別なものをYouTubeなどで配信するというやり方が、今後主流になっていくのではないかと思う。

・ただ単にネット配信すれば皆さん見てくれるのか。それは世界中に配信すると、2,000人以上は、ホールに来る人以上には見てくれるだろうが、やはり経費の面でも全くそぐわないというところがあると思う。

・審議事項2について、新宿文化センターとは毎年お仕事をさせていただいている。

・新宿文化センターだけではなく、文京区とも提携しており、文京区でのコンサート又はアウトリーチ活動、小学校やそういう施設に行ったり、演奏する機会がたくさんある。

・23区のホールで、他にはなくて新宿文化センターにあるもの、貴重な財産としては、パイプオルガンがある。パイプオルガンのある区のホールというのは、都内ではないのではないか。上野の文化会館にもないし、NHKホールは、NHKの持ち物。サントリーホールはサントリー芸術財団の持ち物。区で持つのは、この辺では文化センター。そういうものは非常に貴重であると思う。

・文化センターのやっていることをみると、他の区の財団さんと比較しても仕方がないが、とても頑張っていると思う。やっている内容も市民レベルのものから子どもたちのもの、または高度な文化芸術の作品も取り上げていると、客観的に思っている。

・ただ、やはり場所的にアクセスがしやすいかというと、結構大変だなと。副都心線の新宿三丁目駅ができて、一番近いところからでも結構歩くというところ。その導線の環境があまりよくないというのは昔から感じていた。贅沢を言うと、駅から文化センターまで雨に濡れずに行けたらいいのにというのは、率直な意見

・それと、コマ劇前。私も学生時代は新宿だったもので、よくコマ劇前に集合していたが、あのときから随分きれいになり、雰囲気が変わり、東急さんがまた新しいホールをつくるということで期待している。

・渋谷の東急文化村さんとフランチャイズ契約をしており、文化村さんと東急さんとはそういう関係でいろいろ事業をやるので、また、そちらの施設を使っの事業の話はさせていただくことになると思うので、歌舞伎町の周辺も変わっていけばと思っている。

・一新宿区民として、言われたようなことがこの会議で話し合われればすごくいいなと思って伺っていた。

・自分も音楽をやっているという立場から、新宿を代表する新宿文化センターをすごく重き存在として捉えており、完成したときまだ学生だったが、柿落しで私も歌わせていただいた経験があり、思い入れが相当ある。

・今日もOh!レガスで拝見したが、内容としてすごく充実されてきて、本当によくなっているという手ごたえというか、そういうものは感じている。

・これも比較しては悪いのかもしれないが、文京区のシビックセンターと比べ、まだまだかなと思うところがあり、そういうのをもっと改善、課題を解決していく。

・私の周りの人は、文化センターの存在も知っているし、友の会みたいなものにも入っている、活用してもらっているが、地域の小学生とかそのお母様方などに話を聞くと、まだ一度も行ったことがないという方も多々いらっしゃるというのが現実。だから、次世代に向けて、いろいろ活用していく方法、そういうものでICTなどを使ってやるというのも1つの手なのかなと思った。

・西口が新しく開発されて、公開空地として利用をどうするかというのが今後の課題になっていくと思う。そういうところで、先ほど新宿文化センターから西口までの間の公開空地、旧コマ劇前。そういうところもそうだと思うが、そういうものの規制の問題。それは政治的な問題とか都との問題とかいろいろあると思うが、そういうのを1つ1つ克服しながら、いい方向に向けて、そういうところでいろいろなパフォーマンス、文化芸術振興につながるようなものができれば、次世代に文化を継承するということにもつながっていくのかなと思う。

・全然違う話で申し訳ないが、今回のワールドカップを見ていた子どもたちが、素晴らしいプレイに、自分もサッカー選手になりたいと思い、頑張っているいろいろなチームに参加するお子さんが増えたみたいなのがあるらしく、そういうのが結構話題になっている。

・文化芸術というものも同じだと思っており、やはりプロの人とか地域の人とか、みんながそういうものを温かく、いろいろパフォーマンスで表現することによって、いろいろな世代、小さい子どもたちも憧れて、あの楽器が弾けるようになりたいとか、ああいう大人って素敵だなとか、ああいう絵を描いてみたいとか、そういうふうにも思ってもらえるような新宿になっていければいいなと思うので、そういうことについて審議していければいいかなと思う。

・これまでいろいろな審議をされてきて、前回までの中間のまとめとなっているICTの活用について、中間のまとめとしても、もう結構まとまっているような印象を受けた。

・ICTの活用は、情報、多様性とか見せ方とか。あとは、情報の面が強くて、実際、文化芸術に触れるとなると、やはりリアルの側面が強いのではないかな。

・時代の流れも一度すごく、ICTでしか触れられなくなった時代を経た上で、最近の若い人はタイムパフォーマンス、タイパといって、映画でさえ早見というのか、飛ばして見る。それは、得方としては情報である。

・映画館で見るときは実感というか、舞台もそうだが、情報としての活用とすみ分け。例えば最近、推しとかいうのは、実際にライブに行くわけではないか。すみ分けが結構できているのかなという感覚もあり、文化芸術振興におけるICTの活用ということについては、前回までの審議を見る限り、中間のまとめとはなっているが、何となく結論が出てきているように思えて、審議を進めるとしたらやはり情報をどう見せるのかとか、ICTの活用については切り離してもいいのかなという感じを受けた。

・地域の文化芸術活動の主体との連携という面では、せっかく新宿フィールドミュージアムもずっとやっているの、そういうのを生かしながら、新しいところもうまく巻き込んで、地域の文化活動を、やはり個々の力が新宿区内の芸術団体は強いなという。

・素晴らしい団体がたくさんあるので、それが連携できたらとても大きな渦になる。そういう中心となり得るのではないかなと思うので、その連携というのを活用できるとよいなと思っている。これはまだ先がよく見えてはいないが、進めていけたらいいなと思っている。

・根本から言うと、新宿の文化とは何かというところから考える必要もあるのだろうと思うが、今までまとめてきた新宿区から見ると、現在はどうしても新型コロナウイルスの感染状況が見通せないという状況から考えなければいけない。

・そういう中で出てくるのが、ICTの活用、そしてICTの活用によってそこから取捨されるリアルな体験。リアルな体験が特に芸術では重要なので、特に美術関係と広場というように考えると、やはりもっと具体的にこれからは考えていく必要があると思う。

・例えば、美術作品の展示等は広場によって、看板とか彫刻そういうもの。あるいは新宿区は広いが、新宿駅周辺にデパートがある。デパートの文化財とか都庁の文化財、そういうものにいろいろ働きかけて、美術展とかそういうものの場所を獲得していくことを考えると、とにかくこれからは少し具体性を持って考える段階に来ているのかなと思う。

・歴史的な文化財については、以前にやってくださった文化財の散歩。人を集めて散歩に出かける、見学会に行くというような行事が具体的にこれからどの程度可能になっていくのかということが、つまり今までやってきたリアルなものに接することが、これからどのように可能性が出て来るのか。そういうことも、ICTの活用のほかに考えてもいいのではないかなと思う。

・前期もこの課題について議論させていただいたが、今のお話のように、なかなか具体的なところまで落とし込めないという状況があったかなと思っている。

・ICTについて、いわゆるZジェネレーションというのか。生まれたときからネット環境の中に育ってきたような方々がこれから増えていく。

・その中で、リアルだけでは難しい、限界も来るだろうということが第一にあって、その中で、地方自治体である新宿区がどういう形で文化芸術に対してICTを使っていく機能というか、役割を果たせるのかと考えたときに、なかなか具体的なところまで議論が及ばなかったかなと思うが、一般論で言うと、やはりプラットフォームとかサイトの重要性というのは多分あると思う。

・新宿ナビとか新宿観光振興協会とかがやっているようなワンストップで、そういう情報が集まるサイトを充実して、そこに何らかの形で参加していただくというのも、小さな一歩ではあるけれども1つあるかなと。

・画像情報などの配信については、今はまだ、いろいろな意味でコストが非常にかかり過ぎるところがある。一方、技術がどんどん進展しているので、それは非常にハンディな形で、音響もいような配信もできるようになっていくのかもしれないが、今の段階で言うと非常にコストがかかっている。

・もっと言うと、ライブのコストは、ネットでアクセスするのに比べると、非常に高い。多分、ネットで文化的な活動をしようと思う方にとってみると、ライブにアクセスするため

の費用がものすごく、逆に相対的に高く感じられるのではないかというのは、国際的にも非常に大きな議論になっている状況である。

- ・つまり、いつでもどこでも誰でも非常に安価にアクセスできるネット情報と、チケットをかなりの金額を出して、そのときにその場に行ってみなければならぬライブだと、明らかにコストの差は拡大している。

- ・その中で、どういうふうに来ていただく可能性を追求していくのかというときに、やはりICTの活用は必要だろうと思うが、具体的にどうかというと、いろいろな課題があって、中間的な取りまとめまでしか至らなかったというのが前期かなと思っている。

- ・もしこれが審議の課題、議論の論点になるということであれば、もう少し具体的なところを、様々なご意見も頂戴しながら、新宿区がこういことをやったらいいとか、こういう条件をそろえる必要があるとか、何かそういう具体的なところに落とし込めるといいと思っている。

- ・2つ目のまちづくり、特に新宿駅再開発との関係は非常に重要なものだろうと思う。新宿中央公園など、公開空地ではなくて公園として使われているものは、一般的に誰もが使えるものだから、今、世の中全体で規制緩和、より活用する、しなやかに運営するとか、よりウォーカブルなまちをつくるという意味で、公園関係の規制は非常に大幅に緩和されつつある。

- ・こういった流れも踏まえながら、公開空地については、やはり公園とは違うので、管理は所有者がしなければならないという点で、所有者の方にウィンウィンの関係というのか、メリットがあるような形での規制緩和、協力とか連携とか、そういったことを求めていくところが重要になるかなという感じがしている。

- ・なかなか難しいテーマであって、2つともやるのかということも考えたほうがいいのかもしれないし、でも両方重要なテーマなので追及してみるというのも、この会議としてはありかなと思う。

- ・論点整理どころかいろいろな論点が出てきて、それは大変重要なことだと思う。

- ・文化というと、大和さんの芸団協、つまり舞台芸術、舞踊、それから工藤さんのオペラ、音楽というようなこと。さらには星山先生の歴史文化、そういうものにみんな触れていきたい。

- ・同時に、それらは全部まちづくりと関係していることが、皆様のご意見でよく分かった。文化センターは、立派なパイプオルガンがあるが、なかなか行きにくいというご意見があったが、やはり、リアルなもの、実際のものに触れる必要がある。

- ・その触れるためのまちづくりをどうやって我々が考えるかということは、非常に大事な問題だろうと思う。これはもちろん行政ともつながっているわけなので、行政のほうにも文化芸術振興会議の考え方としてお知らせをしたいと思う。

- ・文京シビックセンターは、非常に目立つ。立派な建物がある。文化センターもそういう形になれば大変よいが、当然それはまちづくりに関わってくる。

- ・そうすると、行政の問題、あるいは交通規制の問題というものとも深く関わってくる。

- ・その上で、ICTは、第6期も問題になった。これは、情報は非常にいいけれども、情報ばかりになって、リアルに触れられないおそれがあるのではないかということだが、今日のお話を伺って、同時にICT文化というものもあり得ると思う。ICTが新しい文化を

生み出す。同時に、ＩＣＴによって、あるいはその複製によって、新しい文化で導くことができる。

- ・最初の区長のご挨拶のときに、記念館がいろいろあると話された。新宿区には確かに漱石山房記念館という、なかなか行きにくいところだと思うが、結構人がいて、漱石があそこでもうしたということがある。

- ・そのほかに佐伯祐三アトリエ記念館、中村彝アトリエ記念館、これはがらがらだが、行ってみると、佐伯祐三のアトリエは復元されて、中村彝の場合はアトリエそのものを記念館にしている。漱石山房記念館より行きやすいところだと思うのに、あまり人が行かない。

- ・アトリエだけ見てもつまらないかなというので、大日本印刷さんをお願いした名作の複製画、非常にディープな絵が並んでいる。これは本物の絵を並べるわけにはいかないから。

- ・アトリエがあって、中村彝の記念館は、上のほうに寝床、下にアトリエがあって、アトリエで描きながら、くたびれると上に上がって寝ていたのだなということがよく分かる。私は、それが芸術創造のリアルだと思う。成果だけではなくて。

- ・なので、ＩＣＴは非常に使い方の問題だと、非常に有効な使い方ができるだろうと。それによって我々がリアルに、文字どおり文化に触れることができるのではないかな。

- ・皆様のお話を伺って、そういう考え方で、この会議でも、行政に対する注文であっても構わないということも含めて、自由に議論していきたいと思う。その限りで、この文化芸術振興会議は、大変重要な役割を持っている。

- ・なかなか人が集まりにくいのが、実際の審議予定を、事務局のほうに考えていただいて、いろいろとまたお知恵を出していただくと同時に、新しい提案を出していくということが我々の大変重要な役割ではないかと思う。皆様のお話を伺ってそのように感じた。

## 8 専門部会の設置及び専門部会員の指名

新宿区文化芸術振興会議規則第6条の規定に基づき専門部会の設置が決定され、同条第2項の規定に基づき、高階会長が、垣内副会長、大和委員、中島委員を専門部会員として指名した。

## 9 事務連絡等

第2回会議は、2月～3月頃に開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

## 10 閉会

会長の挨拶をもって、午後3時30分に閉会した。